



地区の世帯数	157世帯
地区の人口	369人
<b>高齢化率</b>	<b>48.1%</b>
（平成27年1月1日現在）	

美濃地区振興センター・美濃公民館

美濃地町イ140-1

☎29-0031

2月3日は節分です。節分の日、豆まきをして「鬼(邪気)」を払います。豆まきには悪魔のような鬼の目「魔目〔まめ〕」にめがけて豆を投げれば「魔滅〔まめ〕」すなわち魔が減するという意味があると考えられています。これらの意味から、豆は鬼を払う道具でありながら、鬼そのものにとらえられていたようです。そのため、節分の豆まきの際は鬼である豆を家の外に投げながら「鬼は外」と唱えます。また、2月19日は旧暦の正月（一月）朔（一日）で、二十四節気の「雨水（うすい）」に当たります。冰雪融け雨水温む時の義で、草木の芽生えが生ずる気節ですが、まだまだ寒い日が続きます。風邪などひかぬようお過ごしください。

## 乙未（きのとひつじ）の年回り

「新年、明けましておめでとうございます。」

「何を言っているんだ？」と言われそうですが、2月19日は旧暦の元旦です。さて、今年は、旧暦でみると354日の一年となり、乙未（きのとひつじ）の年回りとなります。

在来の殻を破り、春気に応じて新しく芽を出したのはよいが、すなわち甲（前年は甲午）になったのはよいが、それが真っ直ぐに伸びないで、いろいろ外界の寒気・抵抗に遭って紆余曲折する、というのが「乙」の字です。日本人はあまり使わぬが、乙乙という熟語がある。ああでもない、こうでもない、と紆余曲折・悩むことです。

「未」は、これは上の短い一と木から成っておって、一はやはり木の上層部、すなわち枝葉の繁茂を表しておる。ところが枝葉が繁茂すると暗くなるから、未をくらいと読む。未は味に通ずる。つまり支の「未」は、暗くしてはいけない、不味でなければならぬ、ということを我々に教えてくれているのです。（安岡正篤 『干支の活学』より抜粋）

一言でいえば今年は、**事業を大きく育てるための我慢の年**です。

「乙未」は、外からの障害は強く、内的にも茂る枝葉が味さを招きます。外に対しても、内に対してもよく耐えて、屈することなく、物事を明らかにしていくことが求められる、我慢の年と言えます。発展の途上だからこそ、苦勞も多いでしょう。苦勞の中での乙未、2015年の態度は、国家、企業、個人それぞれの事業において、とても大切になるだろうと感じます。とにかく、一人一人が様々な状況下で試される年回りです。

## 注連縄づくり

12月26日（金）

＜教育協働化事業：青少年育成地区民会議＞



ら孫やひ孫に「男の神さんと女の神さんがおっとなあ・・・」などと話を聞かせていたのでしょうかね。今ならさしずめ、「ケータがジバニャンと・・・」でも言いながら縄を絞うのでしょうか？ 昨年の末に教育協働化事業の一環として注連縄作りが行われました。地区老人クラブの皆さんによる御指導のお陰で、見事な注連縄が出来ました。

本来は、各家庭が正月に迎える歳神を祀るための依り代とするものが注連縄（しめなわ）だそうです。普通、注連縄は左纏え（ひだりなえ）ですが、これは天上にある太陽の巡行で、火（男性）を表しているそうです。また、左を重んじるのは古事記の伊邪那岐（いざなぎ）、伊邪那美（いざなみ）による国産みにも通じます。昔は爺様が縄を絞いながら



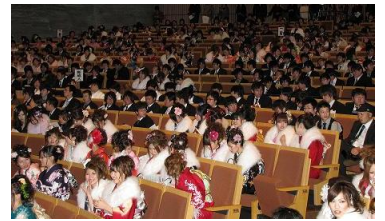
## 益田市成人式

1月2日(金)

<益田市成人式実行委員会>



新成人の門出を祝う成人式が、正月休みに合わせた1月2日、県芸術文化センター「グラントワ」で開催され、417人の新成人が晴れ着やスーツ姿で出席しました。新成人約400人を前に山本浩章市長は「大人としての自覚を持って、主体的に、積極的に学んでいってほしい」と激励しました。



美濃地区では尾木千尋さん(有田上)と益成翔大さん(本郷下)の2名が対象となります。先月号でも記載しましたが、「大人探し」の始まりです。ご成人おめでとうございます。

## 消防出初式・地区消防祝賀会

1月11日(日)

<美濃地区消防後援会>

益田市消防団第13分団は益田市主催消防出初式に参加した後、美濃地区消防後援会主催の下、式典と祝賀会を行いました。団員の団結心と地区内における防火、防災意識の高揚を再確認した祝賀会となりました。昨年、美濃地区では1件の火災もなく、日ごろから地区民の皆さんの防火に対する意識の高さと、消防団員の皆さんの啓発活動のお陰と有り難く感謝しております。今年も火災ゼロを目指しお互いに気をつけましょう

今年表彰された皆さんです。(敬称略)

島根県消防協会長表彰(勤続章:20年)

団員 原 裕樹

益田広域圏消防協会長表彰(勤続章:15年)

団員 中島 衛

団員 椋木 模一

益田市長感謝状(勤続30年)

副分団長 田原 靖

団員 中島 弘幸

## どんど焼き

1月17日(土)

<教育協働化事業:青少年育成地区民会議>



火は穢れを浄め、新しい命を生み出します。竹の爆ぜる音は災いを退け、高く上る煙に乗って正月の神が帰ります。どんど焼きは、祓い清めという役割と、正月に浮かれた人々を現実世界に戻す、二つの役割を担った行事と考えられます。本年度はかつてないほどの地区民が参集し、盛大などんど焼きとなりました。伝統行事は次世代に伝承してこそその伝統行事です。そして次世代を育てるのは私達です。



## 自治組織説明会

1月19日(月)

<美濃地区自治組織設立準備会>



これからの「自治組織」の仕組みについて市の人口拡大課からの説明会が行われました。当日は人口拡大課の課長、課長補佐がご参加頂いた21名の地区民を前に地域自治組織ガイドブック(案)の説明、質疑応答が行われました。今後の美濃地区の再興や存続に関する大きな課題であり、本来の自治組織のあり方を再考するきっかけとなる内容でした。人口拡大課からは地区の実態を把握することが重要との話があり、私達地区民は地区の実態が見えていないと感じました。私達が住んでいる美濃の事実を知るには勇気が必要です。また、事実と真実は似て非なるものです。事実から目をそむけない勇気、真実を語る勇気・・・どちらにしろ、勇気がなければ本来の自治組織の構築は難しいようです。論語の「義を見てせざるは勇無き也」を実践する時が来たようです。



## 地区内外交通実証実験

1月21日(水)

<国交省：「小さな拠点」づくり事業>



趣旨にご賛同頂き、事前にモニターとしてご登録頂いた8名の代表地区民の方を対象に地区内外交通実証実験が実施されました。当日はご自宅又はご自宅付近まで実験用車両(ジャンボタクシー)でお迎えあがり、そして公民館で簡単な説明を行い、その後、益田のゆめタウンまでの移動となりました。美濃地区では初めての实証実験ということで、待機職員を含む関係者全員が同じ腕章をして実証実験に臨みました。今回は買い物を中心とした実証実験となったのですが、普段の買い物とは違い、好きな売り場で好きなだけ時間を使えるという買い物の原点に戻ることが出来たような貴重な時間でした。今回の実証実験が美濃地区民の生活向上につながることを願っています。今回ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。



## 3回健康教室・健康相談開催のお知らせ

<美濃地区健康を守る会>

2月4日(水曜日)午後1時30分から「第3回健康教室・健康相談」を公民館で開催いたします。今回は「室内での頭を使った簡単体操」を予定しています。

## 市・県民税申告相談のお知らせ

<益田市税務課>

税金の申告時期が近づいて参りましたが領収書等の整理は出来ていますか?

2月23日(月曜日)午前9時から「市・県民税申告相談」を美濃公民館で行います。税務課より職員が出向き、皆様の疑問などに分かりやすくお答えいたしますので、お気軽にお越しください。

## 四方山話

<ハツラツ通信編集部>

「あの人は強い人だ!」「あの人は弱い人だから」・・・  
強い人ってどんな人? 弱い人って何が弱いのか?  
口の達者なあの人は強い人? 思い込みで人を平気で傷つけるあの人は?  
自分の弱さを認めた人が、他人から見て強く見えるだけなんだって・・・  
だけど、自分の弱さを認めるって、どうすればいいの??  
とにかく、「けど」「たら」「のに」「れば」を止めようよ。



謹んでお悔やみ申し上げます。

有田下 北野 武美 様 (12/31) 享年 85 歳

## 【2月】 これからの地区内行事予定

3日(火)	巡回診療日(神埼内科)	13:30 ~	【美濃診療所】
4日(水)	健康相談・健康教室	13:30 ~ 15:00	【美濃公民館】
5日(木)	巡回診療日(村野医院)	13:30 ~	【美濃診療所】
12日(木)	「小さな拠点」づくりフォーラム in 島根	13:00 ~ 16:00	【松江テルサ】
13日(木)	巡回診療日(林医院)	13:30 ~	【美濃診療所】
17日(火)	巡回診療日(神埼内科)	13:30 ~	【美濃公民館】
18日(水)	先進地視察	9:00 ~ 18:00	【柳井市日積地区】
19日(木)	巡回診療日(なかしまクリニック)	13:30 ~	【美濃診療所】
23日(月)	市・県民税申告相談	9:00 ~ 16:00	【美濃公民館】
26日(木)	巡回診療日(すみかわクリニック)	13:30 ~	【美濃診療所】

※行事の詳細はその都度ご案内いたします。日程は変更される場合もあります。

## 【暦こらむ担当者より】

内容が難しい、文字が多すぎる等のお言葉を地区民の方からも頂いております。旧暦は間違いなく、日々の生活を、特に中山間地域である美濃を豊かに彩ってくれるものと信じておりますが、太陽暦に親しんでいる人たちにとって旧暦は難解なものであることも承知しております。旧暦が難しいのは、旧暦は人の感覚を重視している暦であり、太陽暦のような単なる数字の羅列ではないからだと思います。感覚を感覚として捉えれば旧暦は簡単なのですが、それを理解しようと文字にした場合、内容は少し難しくなってしまうと思います。例えば、「愛って何？」と問われた場合、感覚的には分かっているのですが、言葉にするのは難しいのと同じです。そして旧暦を知るには多少の基礎的な知識が必要になります。今はその段階とと思ってください。難しい、読むのが面倒だと感じられましたら、**タイトルと太文字や下線部分だけでも目を通してください。**そして、興味が湧いてきた時に読んでくださればと思います。



## 暦こらむ

「聖人」とは「日知り人」のことで、日を知るとはその日がどのような意味合いを持った1日かを知ることです。旧暦は「生活暦」「農耕暦」などと呼ばれるほど生活に密着した暦です。旧暦を知ればあなたも聖人の仲間入りです。

## = 第9回【干支と恵方巻】 =

「干支（えと）」は正式には「十干十二支（じっかんじゅうにし）」と言います。十干と十二支を組み合わせると年、月、日に当てはめています。「干支」は兄弟の意味で、陽を表す兄（え）と陰を表す弟（と）をつけて五行（木・火・土・金・水）に組み合わせます。甲（きのえ）→木の兄、乙（きのと）→木の弟、丙（ひのえ）→火の兄、丁（ひのと）→火の弟、戊（つちのえ）→土の兄、己（つちのと）→土の弟、庚（かのえ）→金の兄、辛（かのと）→金の弟、壬（みずのえ）→水の兄、癸（みずのと）→水の弟というように、五行の名称の順序に兄弟（えと）をつけて読んでいます。十二支はご存じのとおり12種類の動物であらわされています。古くは順に一月から十二月までの月名を意味する文字だったそうです。すなわち、子（ね・一月）・丑（うし・二月）・寅（とら・三月）・卯（う・四月）・辰（たつ・五月）・巳（み・六月）・午（うま・七月）・未（ひつじ・八月）・申（さる・九月）・酉（とり・十月）・戌（いぬ・十一月）・亥（い・十二月）です。この十二支を十干とあわせて分配すると、甲子（きのえ ね）、乙丑（きのと うし）、丙寅（ひのえ とら）、丁卯（ひのと う）・・・と六十の循環が成立します。年齢も六十歳で還暦となるように月、日もこの順序で呼ぶこととなります。ちなみに高校野球の聖地、甲子園球場は大正13年（1924年）、甲子（きのえ ね）の年に竣工されたのでその年の干支を冠しています。

また、十干、十二支にはそれぞれ様々な解釈があるようですが、植物の芽生えから成長、成熟、収穫、大地に帰るといった過程ととらえることが多いようです。その年の歳徳神（としとくじん）の在する方位を恵方（えほう、吉方、兄方）、または明の方（あきのかた）と言います。歳徳神は、陰陽道で、その年の福德を司る神で、年徳、歳神（年神）さま、正月さまなどとも言います。

新 暦	旧 暦	月	行 事 等
2月 3日	十二月十五日		節分 【雑節】
4日	十二月十六日	満月	立春 【二十四節気】
12日	十二月廿四日	下弦	
18日	十二月三十日		旧暦 甲午（きのえうま）大晦日
19日	正月 一日	新月	旧暦 乙未（きのとひつじ）元旦・睦月（一月）朔（一日） 雨水 【二十四節気】
26日	正月 八日	上弦	

さて、「節分には恵方を向いて恵方巻を丸かぶりすると・・・」言われていますが、十干が分かればその年の恵方が分かります。十干が甲・己の年は東北東（4・9）、乙・庚の年は西南西（0・5）、丙・辛の年は南南東（1・6）、丁・壬の年は北北西（2・7）、戊・癸の年は南南東（3・8）が恵方となります。今年は乙未（きのと ひつじ）ですから、恵方は西南西です。十干を調べるのは大変と思われるでしょうが、10年ごとに巡っているため西暦の下1桁をみればすぐに分かります。上記の方角の後ろに記載した数字が西暦年から読み取る恵方の方角です。

ところで、この恵方巻ですが、元々は明治時代に大阪の船場で縁起担ぎとして始まったものを海苔の消費拡大を目論んだ海苔業界団体が寿司屋の団体と一緒に仕組んだPR作戦の結果、新しい節分の習慣として根付き始めたそうですよ。バレンタインデーのチョコレートや土用の鰻と同じで、企業の戦略が庶民の生活に組み込まれた一例です。

※このコラムでは太陰太陽暦（旧暦）を漢数字、太陽暦（新暦）を数字で記載しています。次回は「三月は小の月？」を予定しています。